

長野県内における小さな拠点形成の現状と特性に関する研究

平成 31 年 2 月 細田 悠介

要旨

目的

都市部に比べて人口減少や高齢化が著しい中山間地域において、地域コミュニティを維持して持続可能な地域づくりを目指すための取り組みである、「小さな拠点」づくりが各地で計画・整備され始めている。そこで本研究では、長野県内の小さな拠点周辺の施設立地を含めた現状把握とグループ分けを行うことで、その特徴や傾向などを明らかにする。

方法

内閣府地方創生推進事務局が行った小さな拠点に関する各種調査から、長野県内の小さな拠点およびその中心となる施設を選定し、中心となる施設から直線距離で半径 500m 圏内に位置する食料品店や飲食店などの生活に欠かすことのできない生活利便施設を、地理情報システムを利用して抽出する。抽出されたデータを集計し、多変量解析を行う。

結論

長野県内の小さな拠点では、主として下記のような知見が得られた。

- 1) 主成分分析により、生活利便施設の集積に関する主成分を得ることができた。
- 2) クラスタ分析により、各種生活利便施設が総合的に集積した拠点と、そうでない拠点との間に大きな隔りがあることが確認できた。また、生活利便施設が極端に少ない小さな拠点が目立った。
- 3) 立地する生活利便施設の種類によっても、現状や傾向に特徴が出ていることがわかった。
- 4) 「小さな拠点」という同一の制度であっても、その整備目的、整備手法、現状などに大きな差異が見られた。

指導教員 藤居 良夫 准教授